

みんなにやさしい、特別支援教育 (16)

前号の授業全体を通して大切にしたい点を具体化するためのアイデアには様々なものがありますが、各学級や子どもの実態に応じて授業づくりを進めることが大切です。

①授業を始める前に

○教室環境を整える

不必要な刺激を視野に入れないために、教室前側の掲示物は、最小限にします。例えば

- ・学習に必要なもので実際に使用するもの。
- ・一年間または学期を通して張り替えをしないで使用するもの。



○準備ができていない子どもに声をかける

- ・子ども同士で確認したり、教え合ったりするための指示例
「教科書〇〇ページを開きましょう。隣の人と確認しましょう。先生の後について読みます。」
- ・支援が必要な子どもの近くで、さりげなくことばをかけた例
「机の上には3つの物を出します。本とノートとふでばこです。」
- ・全員が指示を理解できているかどうかの確認例
「教科書の45ページを開けます。前から3行目です。指で押さえてごらんください。」

②授業全体を通して

板書を書き写したりメモをするのが難しかったりする子どもには、何箇所かを空欄にしたワークシートを用意しておくことも有効です。

正三角形の角の大きさを調べよう

1辺が \quad cmの正三角形
(\quad)°
1辺が \quad cmの正三角形
(\quad)°

(予想) ①

②

まとめ

③導入の場面

- ・学習課題（めあて）は黒板などにはっきりと示し、何を学ぶ時間なのかを明確にします。
- ・個別に支援が必要な子には、学習内容と学習課題（めあて）をシートなどにまとめ、必要な子どもに示して、自分で確認できるようにします。



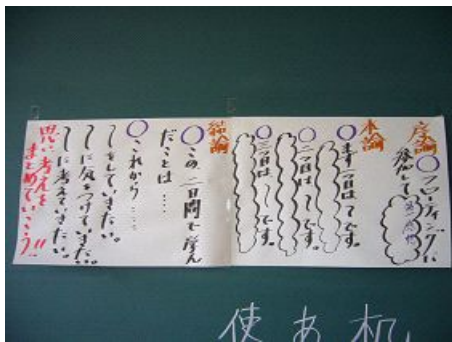
学習シート	教科書 P〇〇 ~ 〇〇まで
〇月〇日()	『 一 つ の 花 』
今日の学習	学習課題 (めあて)
1 漢字の練習	一人で新しい漢字が書けるように練習する。
2 音読	先生の音読について読む。 友だちと一緒に声を合わせて読む。
3 ワークシート 発表	ワークシートに取り組む。 友だちの発表を聞く。 わからないところは、発表を聞いてシートに書き込む。
4 提出	全部書き込みたら、先生に提出する。

・教科の内容によっては全員に活動手順を示すことも効果的です。また、特別な支援を必要とする子どもにのみ、さりげなく手順を示すことが効果的な場合もあります。



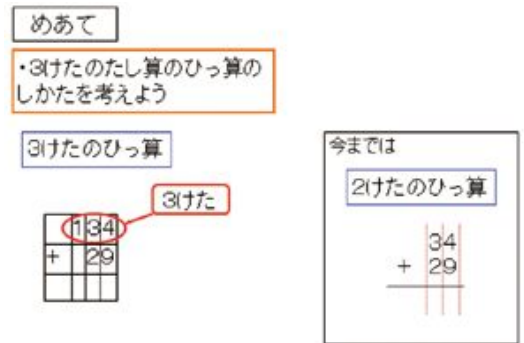
④一人で考える場面

・何をどのように考えればよいのかを示しています。また、どのくらいの分量の活動なのかを示すことで、子どもが見通しをもって考えやすくなります。



・学習課題 (めあて) を既習内容と比較し、キーワードと視覚情報で分かりやすく示した例です。つまづいているところを、カード等で個別に示すことで、子どもが考えやすくなります。

・文字を書きにくい子どもには、マス目の大きさや数の異なる原稿用紙を用意すると、書きやすくなったり、多くの枚数を書くことができ自信が持てます。



⑤グループで考える場面

・活動の前には、説明が長くならないように気をつけます。活動の手順を図で示したり、完成した状況を示したりするなど、活動の内容や目標が、子どもに伝わっているかどうかを確認しながら説明します。

・すべての子どもに、活動手順の確認がしやすいように、全体に提示したものを縮小して各班に示しています。

- ・グループ活動の前には、特別な支援を必要とする子どもが活動しやすいグルーピングをすることが重要です。

⑥発表・話し合いの場面

- ・発表がしやすくなるよう、教室前方等の見えやすいところに話型を示します。話型は、話し合いを深め広げる上でも、学び合いを促す上でも効果的ですが、定着させるには工夫が必要です。



- ・話を聞きにくい子どもへ、話すときと聞くときの音量の違いを意識させる指導をします。聞くときには、自分自身の声が「0の声」であることを視覚的に示したり、場面による話すときの音量の違いを視覚的に示した例です。

⑦まとめの場面

- ・1時間の授業の終わりには、その授業での子どもの思考の流れが分かるような板書が求められています。始めに「何をするのか」が分かり、最後に「何をしたのか」が明確になっていることが重要です。



⑧家庭学習を出す前に

- ・家庭学習の課題内容が、子どもに伝わっているかどうかを、隣同士で○をつけ合うなど、確認することが大切です。

⑨校内の多くのアイデアを共有して

今回説明させていただいたアイディアは、多くの実践の中の一例であり、各学級を回みると、これ以外にも多くの実践があります。みんなで、多くのアイディアを出し合い、共有して各自の授業力を高めていくことが大切だと考えます。

